

2015（平成 27）年度 人間発達環境学研究科・発達科学部  
年 次 報 告 書

神戸大学大学院人間発達環境学研究科・発達科学部

## はじめに

ここに、人間発達環境学研究科と発達科学部の平成27年度の活動を記録した年次報告書をお届けする。

大学の教育研究に係る活動は、この数年、質・量ともに急速に拡がり、その在り方は大きく変わりつつある。そのため、1年を単位としてこのように総括する作業は、現在の地点を確認し将来を見据えていくために、ますます重要になってきている。

さて、この1年を振り返ると、学部改革の動きが真っ先に頭に浮かぶ。発達科学部と国際文化学部を再編統合し国際人間科学部（仮称）を設置する改革は、一昨年2月に福田学長（当時）から神戸大学の機能強化改革の一つとして提起され、それ以来様々な議論を重ねてきた。改革は、どんなときも、それまで辿った道筋を変更し別の方向へ歩を進めることを要求するため、変化の度合いが大きければ、誰しも慎重に構える。ましてその提案が外から発せられたものであれば、それと対抗し守りの姿勢を強くしても不思議ではない。

しかし逆に、外から押し寄せた改革だからこそ、それと真摯に向き合う必要もある。変化を求める側にもそれなりの理由があるはずであり、それを見定めることなく無理矢理独自の道を進もうとすれば、いつしか時代の流れにひとり残される危険がある。それになにより、長く積み重ねた経験や知見を価値あるものと自覚するのであれば、それを将来に向けてさらに発展させるため、刻々と変化する環境のなかで、その経験や知見が最も活きる適合的な場を見いだす努力も必要である。

この報告書には、構成員全員が、学部改革という大きな転換点に立ち、こうした様々な思いや考えをいさきながら、しかし現実の世界で一步でも前に進もうとした数多くの軌跡が記されている。そこには、学部改革に止まらない、もっと広い観点から将来を見据えた「改革」が含まれている。

「保守せんがために改革する」、それは以前この場で紹介した18世紀イギリスの政治家の言葉であるが、そこに込められた意味は、激動の時代に突入した今日の大学に有用なものと映る。大学の使命が“真理の発見”であり、それを時代を超えた普遍的なものとしていくためには、私たちは、それを可能とする形を求めて挑戦し続けなければならない。

ここに記録された「改革」の一つひとつを、この1年間の私たち自身の成果と受け止めつつ、それが次代へとつながりさらに発展していくことを祈っている。

-----

最後になりますが、3年間、本当にお世話になりました。大学の姿が急激に変わっていくまさにそのとき、まったく能力のない私が曲がりなりにも研究科長・学部長の要職を勤めることができたのは、ひとえに、研究科構成員のみなさまの暖かいご支援があったからにほかなりません。この場を借りて、御礼申し上げます。

(神戸大学大学院人間発達環境学研究科長・発達科学部長 岡田章宏)

**2015（平成 27）年度**  
**人間発達環境学研究科・発達科学部 年次報告書 目次**

はじめに

目次

1. 平成 27 年度の取り組みの概要	1
1.1. 文部科学省の施策に関わる取り組み	1
1.2. 神戸大学の施策に関わる取り組み	1
1.3. 部局としての取り組み	3
2. 学部・大学院運営	6
2.1. 学部・大学院運営組織	6
2.2. 将来計画	7
2.3. 管理運営	8
2.3.1. 人事委員会	8
2.3.2. 学部・大学院運営委員会	9
2.3.3. 教員活動評価委員会	10
2.3.4. 中期計画推進委員会	10
2.3.5. 自己評価委員会	10
2.3.6. 安全衛生委員会	11
2.4. 予算	12
2.4.1. 予算に関する特記事項	12
2.4.2. 予算関係の審議等の状況	12
2.4.3. 外部資金獲得状況（教員及び学生）	13
2.5. 広報及び情報公開	13
2.5.1. パンフレット、ウェブサイト等	13
2.5.2. 発達科学部 オープンキャンパス	14
2.5.3. 人間発達環境学研究科 オープン・らぼ	16
2.5.4. ホームカミングデイ	17
2.6. 環境設備	18
2.6.1. 教育・学習環境の整備	18
2.6.2. 交流ルーム・アゴラ	19
2.7. 教員研修	21
2.7.1. F D	21
2.7.2. 初任者研修	21
3. 入試	22
3.1. 一般選抜入試	22
3.1.1. 入学試験委員会	22
3.1.2. 一般選抜入試に係る総括と課題	22
3.2. 特色ある入試	23
3.2.1. 社会人特別入試	23

3.2.2.	3年次編入学試験	23
3.2.3.	アドミッション・オフィス入学試験	23
4.	国際交流活動	24
4.1.	学術交流協定	24
4.2.	留学生	24
4.3.	「英語による授業の実践－ESD研究」	27
4.4.	学生・教員の海外派遣	27
4.5.	海外研究者の招聘	30
4.6.	スタディツアー	31
5.	教育	33
5.1.	教育課程	33
5.1.1.	今年度の特長	33
5.1.2.	学部、研究科共通科目	35
5.1.3.	教職教育	37
5.1.4.	博物館学芸員資格	39
5.1.5.	ESDサブコース	39
5.1.6.	ゲストスピーカーおよびティーチング・アシスタント	40
5.1.7.	グローバル人材育成推進事業	41
5.2.	各学科等の教育	43
5.2.1.	人間形成学科	43
5.2.2.	人間行動学科	44
5.2.3.	人間表現学科	46
5.2.4.	人間環境学科	49
5.2.5.	発達支援論コース	49
5.3.	各専攻講座の教育	51
5.3.1.	人間発達専攻	51
5.3.2.	人間環境学専攻	57
6.	進路	59
6.1.	キャリア形成支援	59
6.1.1.	キャリアサポートセンター	59
6.1.2.	学振特別研究員申請支援	67
6.2.	卒業・修了後の進路	69
7.	研究	70
7.1.	今年度の特長	70
7.1.1.	研究動向	70
7.1.2.	学生の受賞	71
7.2.	学術WEEKS	72
7.2.1.	学術WEEKSの各事業・セミナー	73
7.3.	プロジェクト研究	79
7.3.1.	アクティブエイジング・プロジェクト（多世代共生型コミュニティの創成研究）	79

7.3.2. ESD の基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援	80
7.3.3. 都市部高齢化地域における住民ネットワーク形成過程の実験的検討	81
7.3.4. 研究科支援共同研究	82
7.3.5. 国際シンポジウム	85
7.3.6. 高度教員養成プログラム	86
7.4. 研究推進	89
7.4.1. 研究推進委員会	89
7.4.2. 研究倫理審査委員会	90
7.4.3. 紀要編集委員会	90
7.5. 各専攻の研究	90
7.5.1. 人間発達専攻	90
7.5.2. 人間環境学専攻	104
8. 産官学共同・地域連携による教育・研究活動	110
8.1. 産官学共同プロジェクト	110
8.2. 地域連携プロジェクト	110
8.3. 高大連携	113
9. 社会的活動・震災復興支援	116
9.1. メンタルケア関係	116
9.2. 災害地への支援活動	116
10. 附属施設	118
10.1. 発達支援インスティテュート	118
10.1.1. 発達支援インスティテュート運営委員会	118
10.1.2. 心理教育相談室	118
10.1.3. ヒューマン・コミュニティ創成研究センター	119
10.1.4. のびやかスペースあーち	122
10.1.5. サイエンスショップ	129
10.1.6. アクティブエイジング研究センター	132
10.2. 実習観察園の運営利用状況	136

**【巻末】**

- 付録1 学術 Weeks 企画ポスター
- 付録2 音楽教育シンポジウムポスター
- 付録3 学術 Weeks タイムスリップコンサートポスター

2015（平成 27）年度人間発達環境学研究科・発達科学部年次報告書

---

編集・発行 神戸大学大学院人間発達環境学研究科自己評価委員会

神戸市灘区鶴甲 3 丁目 1 1

tel. 078-803-7905

fax. 078-803-7939

E-mail. [hudev-soumu@office.kobe-u.ac.jp](mailto:hudev-soumu@office.kobe-u.ac.jp)

印刷 一（はじめ）印刷

発行日 平成 28 年 9 月